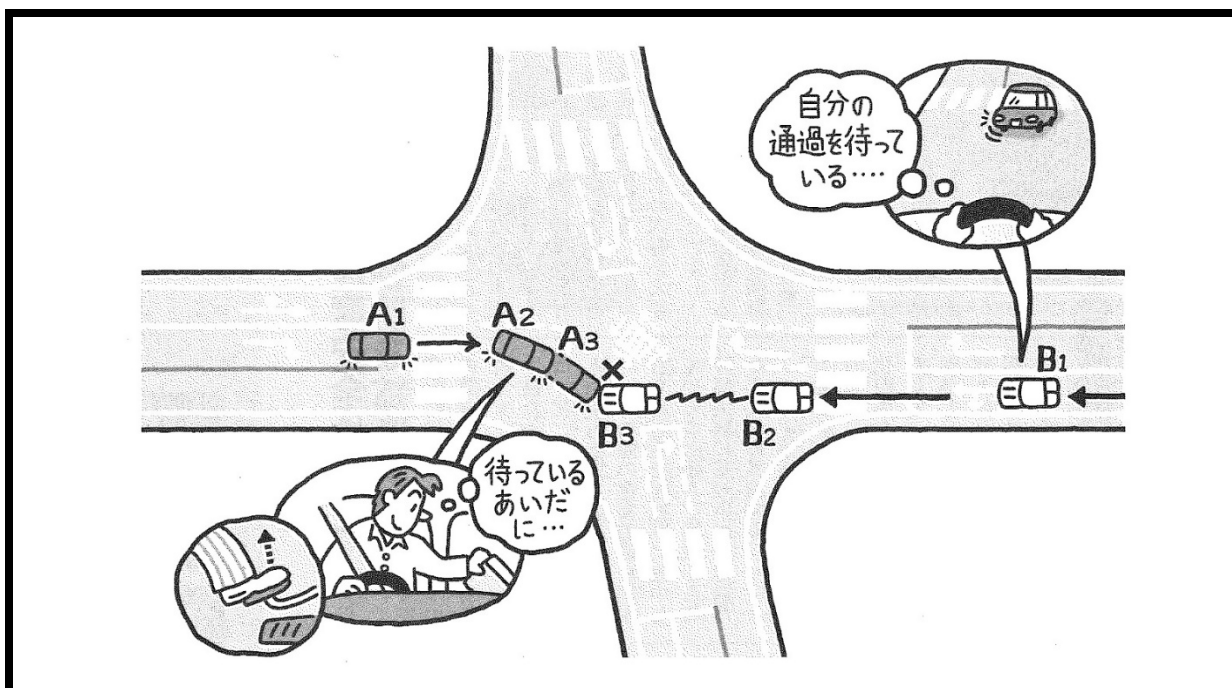


■ 事故の概況



事故類型：右折直進

発生日時：週末 早朝5時頃

当事者A：普通乗用車 20歳代 男性

当事者B：普通乗用車 50歳代 男性

■ 事故の概要

Aは、往復2車線の国道を走行中、右折するため前方の交差点の右折車線に入り、対向車をやり過ごすため停止している間に助手席の荷物をまとめようとATセレクターをDドライブに入れたまま右足でブレーキペダルを踏んだ状態で整理をはじめたところ、気が付かないうちに車が動き出してしまいました。

Bは、信号機が赤色から青色に変わったので止まらずにそのまま時速約70kmで交差点に進入しました。対向側に右折待機中のA車がのろのろと動き出したのに気づきましたがB車の通過を待っていると判断し減速はしないで交差点に進入したところ、A車が停止しないので急ブレーキをかけましたが回避できず衝突してしまいました。

■ 事故から学ぶ

AT車の多くはアクセルを踏まない状態でもブレーキペダルを踏まなければゆっくりと動き出してしまいます。(クリープ現象)

クリープ現象は車庫入れなどの際に車両をごくゆっくりと動かしたいときや坂道発進などで後退しなくて済むなどの利点があります。逆に長い間停止したいときなどはブレーキペダルをしっかりと踏み続けておく必要があります。AT車の特性はときとしてマニュアル車では起きない事故の要因となることがあります。AT車の特性をよく理解することも安全運転につながる大切なことです。